

国際公共政策研究センター  
主任研究員 神野

## BRICs サミットの意義

### 1. BRICs サミットの狙い

ロシア、中国、インド、ブラジルの4カ国は、6月16日、ロシアのエカテリンブルクにおいて首脳会議（BRICs サミット）を開催した。

この BRICs サミットは今回初めて開催されたもので、主催国ロシアのメドベージェフ大統領が開会挨拶で述べたように、世界経済において大きなシェアを持つに至った BRICs4 カ国が意思疎通を密接にし、共通の立場を構築することを通じて世界経済における影響力を強化することを目指すものである。

### 2. 共同宣言の内容

サミットで採択された共同宣言の主な内容は、①G20 を中心として世界経済・金融問題の解決に協力、②国際金融機関の改革と新興国及び発展途上国の発言権の拡大、③自由貿易と投資環境の改善、④最貧国への援助促進、⑤持続可能な開発、⑦エネルギー政策における協力、等に言及するものである（以下、仮訳）。

### BRICs サミット共同声明

ブラジル、ロシア、インド、中国のリーダーは、2009年6月16日、エカテリンブルグにおける会議において国際経済の現状、世界経済の発展に関する重要問題及び BRICs4 カ国における協力関係強化の可能性について議論し、以下の合意に達した。

1. 金融危機に対し G20 サミットが主な役割を果たすことを強調する。G20 は国際経済・金融問題に関する協力、政策協調及び政治対話を促進するものである。
2. 我々は、すべての国家及び関連する国際機関が 2009年4月2日のロンドン G20 サミットにおいて採択された決定事項の実行に主導的な役割を果たすことを求める。我々は、2009年9月にピッツバーグで開催される次回の G20 サミットにおいてさらに協力が前進するよう我々4カ国及び他のパートナーと密接に協力する。2009年6月24日～26日に開催される国連世界経済金融危機対策会議の成果に期待する。

3. 我々は、国際経済の変化に対応し、国際金融機関の改革を進めるより努力する。新興国及び発展途上国の国際金融機関における発言力を高めるとともに、国際金融機関のトップと役員は公正で透明性が高い能力ベースのプロセスに基づき選出されなくてはならない。我々はより安定的で予測可能性が高く多様性のある国際金融システムが必要であると考えている。
4. 我々は金融経済のアーキテクチャーは特に以下の原則に基づいて改革されなくてはならないと考える。
  - －国際金融機関における民主的で透明性のある意思決定及び執行プロセス
  - －確固たる法的基盤
  - －各国の規制当局と国際的基準設定機関の行動の親和性
  - －リスク管理及び監督の強化
5. 世界経済の回復には、国際貿易と対外直接投資が重要な役割を果たすと考える。すべての関係者が国際貿易及び投資環境の改善に協力することを求める。我々は、国際社会が多国間通商システムを安定的に維持し、保護主義を抑制し、WTO ドーハ開発アジェンダの包括的かつバランスの取れた解決を目指すことを求める。
6. 最貧国は金融危機の影響を最も受けている。国際社会はそれらの国々に流動性の高い資金援助を行うべきである。国際社会は発展に対する経済危機の影響を最小限に抑え、ミレニアム開発目標を達成するために努力すべきである。先進国は国内総所得の 0.7%の政府開発援助を行うというコミットメントを実行するとともに、途上国への援助の増額、債務免除、市場アクセスの改善、技術移転にさらに努力すべきである。
7. リオ宣言、アジェンダ 21 及び多国間合意などから構成される持続可能な開発の概念を実行することこそが経済発展のパラダイム・チェンジの方向性である。
8. 我々は、エネルギーの領域、特にエネルギー生産者、消費者及び通過国を含む、不確実性の低減及び安定性と持続可能性を確保するための協調と協力の強化を支持する。我々はエネルギーの多様性を支持する。

共同声明の内容は全体的にやや紋切り型で、メッセージ性があるのは IMF などの国際金融機関の改革を求め、新興国の発言権拡大を求める部分である。この点についてメドベージェフ大統領は BRICs サミット直後の TV インタビューのなかで「1930 年～40 年代、現行の国際金融システムが形成された当時、我々は 4 カ国はその決定プロセスに参加していない。すべてが我々以外のところで決定された。新しい国際金融システムの形成にあたりこのようなことを繰り返されることは受け入れられない。我々は新たなルールづくりに参加するために政策を強調させることが重要である。」と決意を語っている。

なお、中国、ロシアがかねてから主張している基軸通貨の米ドルからの変更及び SDR の役割の

拡大については会議において議論された模様であるが、共同声明には盛り込まれなかった。

### 3. BRICs サミットの評価

メドベージェフ大統領は同じ TV インタビューのなかで「BRICs サミットは国際問題を解決するための新たなフォーラムが形成されたという点で歴史的に非常に重要なイベントだった。4 カ国がサミットを開催して国際的な課題の解決策や世界経済危機を克服するための方策をともに検討し将来の国際金融システムについて議論することができたという事実が非常に重要だ。」とその意義を強調した。

しかし、メディアには BRICs サミットの内容はともかく「開催したことに意義がある」とする見方が多い。Economist 誌 (18/6/2009) は「初の BRICs サミットの成果は実質というよりレトリックである。メドベージェフ大統領は BRICs サミットを『世界政治の中心点 (epicenter)』と呼んだが、国際経済を議論するフォーラムとしては G8 に対抗することに決定的に失敗した。」と指摘している。

また、ロシアの Gazeta 紙も「BRICs4 カ国は政治システム、経済モデル、国家発展の優先課題、先進諸国との関係などの点において違いが大きく、実質的な意思決定を伴うブロックや連合などを形成することは難しいだろう。」論評している。

ロシアは 6 月に BRICs サミット以外にも、上海協力機構 (SCO) (参加国：ロシア、中国、カザフスタン・キルギス・タジキスタン・ウズベキスタン) 及び集団安全保障条約機構 (参加国：、ロシア、アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン) の首脳会議を開催しており、これは周辺国への影響力の拡大と外交の多様化を指向するメドベージェフ政権の外交政策の一環と見られる。

以上